

図3 H21～25年5か年平均
性質別歳出決算（普通会計）

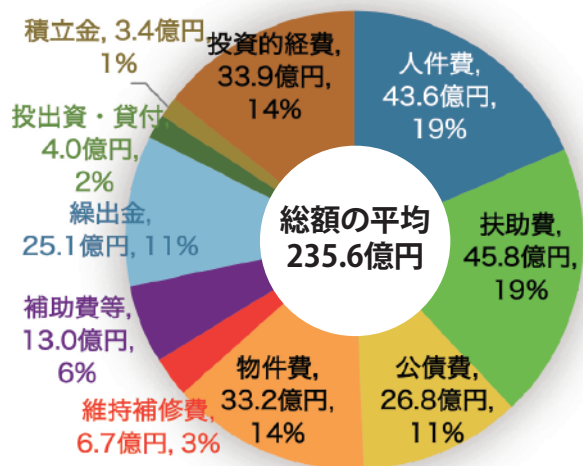
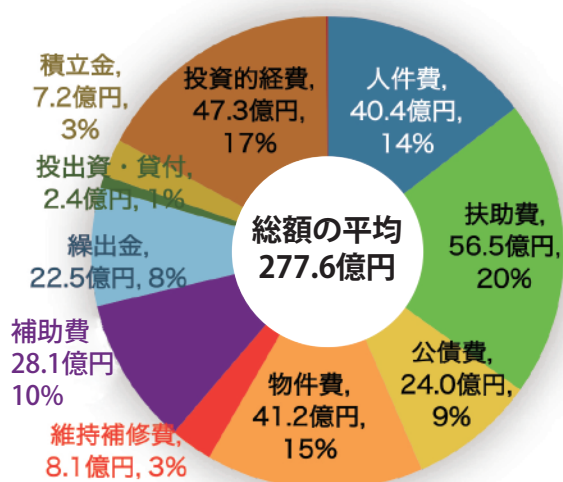


図4 H27～R1年5か年平均
性質別歳出予算（普通会計）



公共施設、面積減っても経費は減らず

平成28年に策定した公共施設総合管理計画の第1次プログラム前期5年が令和2年度で終わります。公共施設の集約・統合は進み、計画通りに床面積は削減されています。しかし、現時点では、それが新たな建設事業費や維持管理費の増加を招いています。更新費用を削減することが目的としながら、結果的に建設事業費（図4、投資的経費）は計画策定時（図3）と比較して、年平均で約13億円増加し、維持管理費の削減額は明らかにしていません。

たまたま、今はふるさと納税による一時的な収入増により、投資的事業に充当する財源が確保できていますが、ふるさと納税という不確定な要素に依存している現状は、持続可能とは言えません。

花の拠点、経常収支に大きな負担

平成28年の基本計画策定から進められてきた花の拠点「はなふる」の通年の収支が令和3年度の予算の中で、ようやく明らかになりました。収入見込み約1億円に対し、支出見込みが約1億5,000万円であり、現時点で、すでに約5,000万円の財政負担が生じる見込みです。この結果、行政改革や予算の一律削減で捻出したお金のほとんどが花の拠点の運営費に充当されることとなります。収入見込みには変動的な要素もあるため、さらに財政負担が拡大する可能性もあります。また、昨年11月に施設はオープンしましたが、さらに令和4年まで追加の事業費の見込みが示され、当初基本計画で6億3,500万とされていた事業費は、関連事業を含め、約24億円まで膨らみました。

経済波及効果は当初の約5億円を上回る約11億円を見込んでいるということですが、地域経済に大きな波及効果をもたらすよう、取引実態などに即してさらに効果的な取り組みが求められます。

行政の政治的中立性に疑念

市役所内部で、特定政党からの政策立案への協力を組織的に行っていたことが明らかになりました。総務部長は問題がある事例はないという一方で、企画振興部長は、政党からの意見照会に対して、市役所のシステムを使用し、企画振興部長名で意見募集を行ったことを認めています。本当に問題だと思っていないのであれば、行政の中立的な運営に関する市役所組織の感覚が麻痺しているのではないのでしょうか。

一緒に考えてみませんか？

① かしわのとえにわを語る会

定例議会ごとに（年4回）開催する少人数の座談会です。あなたが普段感じている恵庭市のこと、ぜひお話をお聞かせください。

【日 時】2021年4月20日（火） 10:30～11:30

【会 場】緑と語らいの広場複合施設 えにあす 会議室 4（緑町 2-1-1）

② 市民と歩む会 まちかどトーク

新岡議員、柏野の「市民と歩む会」2名による報告会です。会派としてもと、ますます活発に活動していきます。

【日 時】2021年 4月19日（月） 18:30～20:00

【会 場】緑と語らいの広場複合施設 えにあす 会議室 8-1（緑町 2-1-1）

かしわの大介facebookページ・ブログでは、各記事のさらに詳しい説明や委員会での配布資料なども掲載しています。

ぜひご覧いただき、コメント、メールなどいただければ幸いです。



ブログ



facebook